

2021年（令和3年）9月28日（火曜日）

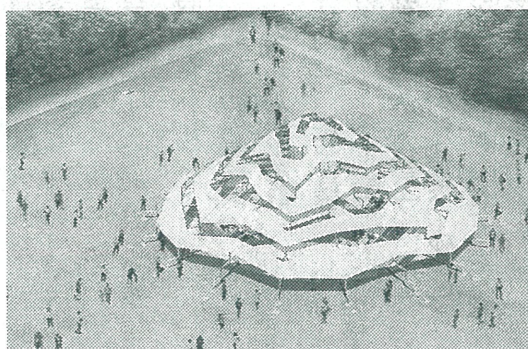
最優秀に進藤氏ら「FUJI ROOF FESTIVAL」

日本建築構造技術者協会東北支部（JSCA東北、平山浩史支部長）は25日、第7回構造デザイン交流会2021構造デザインコンテストを開いた。オンラインで公開ヒアリングした結果、進藤正人氏ら5人（いずれも清水建設）の「FUJI ROOF FESTIVAL」を最優秀賞に選定した。

JSCA東北

今回のテーマは「オリンピックを楽しむためのパブリックビューイングに架ける屋根」。東京五輪開催までにコロナ禍が落ち着き、人々が自由に集えるようになったことを想定し、期間限定のにぎわい空間として500人以上を収容できる仮設屋根構造物の提案を求めた。審査は小野田泰明委員長（東北大学教授）ら5人が担当した。

富士山をモチーフとする屋根形状の「FUJI ROOF FESTIVAL」は、鉛直加重を負担する18本の「稜線ユニット」をつなげ、平加重を支えて雲海の奥行きを表現する白地の「雲海クロス」で構成する。稜線ユニット頂部はレシプロカル構造とし、部材が互いに支え合うとともに、火口のような立体構造



「FUJI ROOF FESTIVAL」

を形成するデザインとした。

受賞作品と製作者（所属）は次のとおり（敬称略）。

〈最優秀賞〉FUJI ROOF FESTIVAL＝進藤正人、成田政人、佐藤圭祐、藤野太知、森翔太（いずれも清水建設）。

〈優秀賞・最多得票賞〉Sakura＝高橋玄、滝田真大、山中美紀、阿部花織里（いずれも山形大）。

〈奨励賞〉オシドリのトンネルーフ＝新関千広、佐藤亜美、八木悠雅、猿橋徹也（同）▷古代を落とし込むトラス＝三沢健介、園田駿希、水野寛仁（いずれも日大大学院）▷杉生（すぎふ）＝溝口哲、LEE CHANG YOON（ともに名大大学院）▷Kite＝鈴木康太、岩淵明志人、山崎健太郎、井上剛志（いずれも東北工業大）。

構造デザインコンテスト